実効性と継続性の高い図画工作科教員研修モデルの開発

最終更新日：2015年9月1日

【プロジェクト代表者】
美術教育講座
准教授
松久 公嗣

キーワード　・図画工作　・図工室　・学習環境　・現職教員研修

プロジェクトの内容（目的・方法・結果と意義）

小学校図画工作科について，それぞれの学校現場では異なった教育的課題が存在し図工室等の学習環境も異なっていることから，それらに最適化した教員研修モデルの開発が必要不可欠であり，各学校現場における学習環境整備スキルの向上と，最適化された研修内容の実践が効果的である。

そこで，小学校現場との連携によって顕在化した図工科における現代的教育課題に対応すべく教育委員会と協議を重ね，「学校現場に則した研修内容の最適化と学習環境整備スキルの向上」という新規性と具体性の高い手法によって，「実効性と継続性の高い図画工作科教員研修モデルの開発」を目的とする本事業を企画した。

本事業では，事前に研修場所となる学校の教育的課題を把握するため，図工室等の学習環境の現状や既に児童が習得した図工科の単元内容を調査し判断することから始めた。事前調査に基づいた研修内容の最適化と学習環境の整備を大学が主導しながら各学校と協働する点が本開発プログラム最大の特徴である。また，研修後の授業実践において研修内容を評価しPDCAサイクルへ繋げる点において，既存の研修制度を高度化した内容となっている。

大学は，これまでの実績を基に図画・工作各領域の基礎的教材研究の多様化を図り，学校現場に応じた最適化を主導した。教育委員会は，既存の公開講座やセンターを利用した教員研修とは別に各学校現場での研修機会を保証し，研修制度の継続と恒常化に向けて協議を進める。

本事業によって，教育大学は小学校現場の様々な課題に対面し理解を深めることができた。学校現場の声としても大学と協働する利点は数多くアンケートに記載されている。現職教員の研修をコーディネートする教育委員会が中核となって，予算的な課題を解決して大学との協働を進めることで，互いに本音を語ることのできる場の設定が可能となり，学校現場の学習環境の改善が確実なものとなる。

成果の応用可能性（私たちの活動の成果は，このような分野にこのように貢献することができます。）

小学校現場の現状に則した研修内容の最適化によって，小学校教員の負担を軽減しながら実際の授業内容に展開可能な研修が可能となり，不得意な印象を払拭して，豊かな体験と自信に裏付けられた図画工作科における授業実践力の向上が見込まれる。

また，通常の学校環境では困難な学習環境整備スキルの修得や向上について，具体的で現実的な整備の過程に参加することで，その能力の育成が可能となる。

一度整備した学習環境や教員の意識は，一定期間隔の研修を継続することで持続可能なため，本事業において確立した教員研修モデルを近隣の小学校に巡回させることで，地域全体に普及させることが可能となる。

開発した研修モデルは実践数の増加に伴い汎用性が拡大し，実践データの蓄積によって実効性が高まるだけでなく，調査や最適化に係る負担の軽減が可能となり継続性を高めるサイクルを構成することが予測できる。

本事業による開発成果は，恒常的に学びを継続することの出来る“理想的な教員像”を目指す教員各自の意識向上に加えて，児童とともに学ぶことのできる“場”の創造に繋がるものであり，教育系大学の地域貢献モデルならびに教員研修モデルとしての波及効果も期待できるものである。

このプロジェクトの形成に寄与した制度等

平成25年度
教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

プロジェクト構成員（所属・職名・氏名・役割分担）

松久公嗣，笹原浩仁　研究代表
美術教育講座（美術）教員
宗像市教育委員会，福津市教育委員会
宗像市立赤間小学校，日の里小学校，玄海小学校，大島小学校
福津市立津屋崎小学校，勝浦小学校